

## 弾き語る

大松 達知

榊原紘『「ロド」  
「Koro」に』

・Skypeのむこうに姉が弾き語るギターのまだ下手なロビ  
ンソン

・あまざらしの自転車を借り坂道の途中で八百屋までを立  
ち漕ぐ

があった。共に魅力的なシーン。ロビンソンはスピッツの  
古典的名曲。すっかりZoomに取って代わられてしまった  
スカイプはすでに懐かしい。二首目は、切迫感をもって何  
かを買いにゆく主人公の内面を受け止めたい。

それはそうと、〈弾き語る〉〈立ち漕ぐ〉が気になった。  
「語る」が「語り」となるのは、動詞の連用形の名詞化。

では、「漕ぐ」↓「漕ぎ」はどうか。彼の漕ぎはうまい、  
と言うかな？ 泳ぎも走りも良くて、取りや打ちは変だ。

総取りや早撃ちは自然。座りが良い、育ちが悪いも自然だ。  
なぜ「漕ぎ」はだめなのか。「媚び」も「凝り」もあるの  
に。「手漕ぎボート」は用例が違うのだから。言葉は数

学のようにはいかない。

〈弾き語り〉〈立ち漕ぎ〉はがっちりした複合動詞だ。  
それをふたたび動詞に戻すことは間違いだろうか。

いや待てよと思う。一九九二年生まれの歌人が、あまり  
使用例がないことを承知で歌に入れた言葉なのだ。現代を  
生きる人の感覚を尊重すべきではないのか。日本語を揺さ  
ぶる意図の有無は不明だけど、作者にとつて自然なのだつ  
たらそれでいいのではないか。そもそもある人の使う言葉  
に間違いも何もないはずだ。これは言葉が変わる（進化す  
る？）瞬間なのではないか。

という視点で読むと、おもしろい用法に思えてきた。言  
葉は数学とは違うのだ。

さて、〈エビの炒め〉という言い方にもすっかり慣れた。  
かつては「炒めもの」とすべきだと思っていた。中国語の  
「炒虾仁」の強引な直訳かなとも思った。野菜炒め、は定  
着している。たい焼き、お好み焼き、もある。焼きが足り  
ない、とも言う。炒めが足りない、と言うかな？ 甘露煮、  
煮凝り、茶碗蒸し、セルクル固め、ひと煮立ち、はある。  
料理界は連用形が似合うようだ。

では、さみだれる、立ちくらむ、雪どける、ネジ回す、  
昼すぎる、缶切る、梅干す、はどうか。いや、こういう分  
析は学者さんにお任せして、ワインを栓抜いて試し飲むこ  
とにしよう。明日は早起きる日だしな。